

常陽新聞

発行所 常陽新聞社

本社 〒300-0051
土浦市真鍋2丁目7番6号
電話 0298-21-1780(代)
FAX 0298-22-6743
水戸支社 〒310-0063
水戸市五軒町1丁目5番48号
電話 029-221-6420(代)
FAX 029-221-6474
東京支社 〒104-0061
東京都中央区銀座2-10-8
大日ビル3階
電話 03-5565-0530
FAX 03-3543-3478

©常陽新聞社 2000

霞ヶ浦発

「わたしの一冊」

22

財団法人土木研究センター
風土工学研究所長(工学博士)

竹林 征三



なりに、何
のことを言
っているの
かあでも
ない、こう
でもない
解釈してみ
る。このよ
うなことで
仏教語大辞
典と格闘の

キリスト教やマホメット教は一
神教であり、その唯一の神が自然
全てを作ったまわれた。その神の
存在は疑ってはならず、唯一の神
の存在を信じなさいから始まるの
で百パーセント宗教ということに
なる。

【たけはやし・せいぞう】一九四
三年九月生まれ。九一年四月建設省
土木研究所ダム部長、九四年四月同
環境部長、九六年四月同地質官を経
て、九七年四月より現職。環境問題
をさらに突き進めると風土問題にな
る。土木工学と風土文化との接点を
求める工学として、風土とハーモニ
ーし、風土を活かし、地域を光ら
す、個性豊かな地域づくりのテクニ
ロジー(風土工学)を構築・提唱
し、展開中。昨年は日本感性工学会
の設立と共に風土工学研究部会を創
設。九八年、第一回科学技術普及啓
発功績者として科学技術庁長官賞、
年間優秀博士論文賞として前田工学
賞を受賞。著書に『東洋の知恵の環
境学―環境と風土を考える新しい視
点』(ビジネス社、九八年)、『風
土工学序説』(技報堂出版、九七
年)、『現場技術者のための環境共
生ホケットブック』(山海堂、九九
年)ほか。つくば市在住。

私は建設省に奉職し、河川技術
に係わる業務に長年従事してき
た。大津(滋賀県)にある建設省
の琵琶湖工務事務所長の時、第一
回の世界湖沼会議が開催され、霞
ヶ浦で開催された我が国で二回目
の湖沼会議(一九九五年)の時
は、建設省土木研究所の環境部長
ということで湖沼の問題にドップ
リ浸かっていた。

百六十二文字の中の、眼耳鼻舌身
意の六文字は環境の受容器官その
ものではないか、環境事象を認知
する六感そのものであることにハ
ッと気づいた。なるほど、眼耳鼻
舌身意のスケルトンで環境事象を
システム化すれば、ランドスケー
プとかサウンド
スケープとかと
思いつき的に言
っていることが
美しい体系とし
て把握できるではないか。六感の
環境学である。錯綜している環境
論をシステム化する知恵は東洋の
知恵、就中(なかならず)、仏教
の経典にあることに気づいたので
ある。

心の悩みと環境問題の構造

私も土木建設技術に係わる
仕事が多かった。ダムは人工の湖
沼をつくる仕事なので湖沼の環境
問題とは縁が切れそうにない。土
木研究所のダム部長から環境部長
に変わった折、多様多面で錯綜
(さいそく)し、混乱している環
境問題を体系的に論じることが現
時点で最も重要な課題であると考
えた。環境技術に関する本を手当
たり次第に読みあさった。近藤次
郎先生の「環境技術読本」という
小冊子の最後の方に、東洋の古典
に環境を把える思想があることを
二、三行書かれていた。

そこから膨大な仏教の経典から
その箇所をどう見つけ出すか。仏
教経典など縁がなかった身にとっ
て出来ることは、まず仏教の入門
書的な本を手当たり次第に読むこ
とから始まった。しかしなかなか
核心にたどり着かない。気が遠く
なる思いがしていた時出会ったの

中村元著『佛敎語大辞典』(全三巻)、『図説佛敎語大辞典』

持ち歩く日が続いた。

仏教語の原義はサンスクリッド
語なのであるが、一応漢字の概
念でその大略は理解できる。不
なじみのない漢字にも出会う。そ
の時に役に立ったのが諸橋轍次先
生の漢和辞典全十四巻である。
なじみのある漢字でも、出来るだ
け原点に戻り確認しながら、自分

め考察を深めてきている。仏教
の教典も当初より精密な構造を突
き止めているのではない。考察を
深めるうちに緻密(ちみつ)
な構造を突き止めてきていること
が理解できた。そして人の心の悩
みの構造と地球の悩みである環境
問題の構造は全くアナロジーであ
ることに気が付いたのである。
そして仏教が自然とは何かの考
察を進める過程は西洋のギリシャ
哲学の考察の過程そのものと何ら
変わらないことに気が付いたので
ある。

信じなさいの手の部分がある。
その思考プロセスは自然哲学その
ものであるということに気が付い
たのである。
そのことがあった後、仏教語大
辞典は環境システムを構築するパ
イプルと化したのである。なるほ
ど自然はこのように考えるのか、
環境事象はこのように把握するの
か目を啓(ひら)かれる日々となっ
た。その考えをまとめたものが、
『東洋の知恵の環境学』である。
環境のシステム化の次の課題が
風土のシステム化である。環境と

「たけはやし・せいぞう」一九四
三年九月生まれ。九一年四月建設省
土木研究所ダム部長、九四年四月同
環境部長、九六年四月同地質官を経
て、九七年四月より現職。環境問題
をさらに突き進めると風土問題にな
る。土木工学と風土文化との接点を
求める工学として、風土とハーモニ
ーし、風土を活かし、地域を光ら
す、個性豊かな地域づくりのテクニ
ロジー(風土工学)を構築・提唱
し、展開中。昨年は日本感性工学会
の設立と共に風土工学研究部会を創
設。九八年、第一回科学技術普及啓
発功績者として科学技術庁長官賞、
年間優秀博士論文賞として前田工学
賞を受賞。著書に『東洋の知恵の環
境学―環境と風土を考える新しい視
点』(ビジネス社、九八年)、『風
土工学序説』(技報堂出版、九七
年)、『現場技術者のための環境共
生ホケットブック』(山海堂、九九
年)ほか。つくば市在住。

「たけはやし・せいぞう」一九四
三年九月生まれ。九一年四月建設省
土木研究所ダム部長、九四年四月同
環境部長、九六年四月同地質官を経
て、九七年四月より現職。環境問題
をさらに突き進めると風土問題にな
る。土木工学と風土文化との接点を
求める工学として、風土とハーモニ
ーし、風土を活かし、地域を光ら
す、個性豊かな地域づくりのテクニ
ロジー(風土工学)を構築・提唱
し、展開中。昨年は日本感性工学会
の設立と共に風土工学研究部会を創
設。九八年、第一回科学技術普及啓
発功績者として科学技術庁長官賞、
年間優秀博士論文賞として前田工学
賞を受賞。著書に『東洋の知恵の環
境学―環境と風土を考える新しい視
点』(ビジネス社、九八年)、『風
土工学序説』(技報堂出版、九七
年)、『現場技術者のための環境共
生ホケットブック』(山海堂、九九
年)ほか。つくば市在住。

著、東京書籍刊(一九八一年)